

会 議 記 録

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

開催日	平成 22年 10月 28日(木曜日)	開催時刻	13時 30分から 16時 00分
会議名	丸子地域協議会(平成 22年度第 7回)		
出席委員	齊藤会長、北村副会長、生田委員、池内委員、上原委員、内田委員、倉沢委員、上坂委員、佐藤委員、清水委員、関委員、成澤委員、松山委員、丸山委員、宮下委員、村松委員、山越委員 【欠席】滝沢委員、中澤委員、横山委員		
市側出席者	関丸子地域自治センター長、中山センター次長兼地域振興課長、関尾市民生活課長、矢島産業観光課長、小相沢建設課長、小林消防課長、松村上下水道課長、下村学校教育課長、滝沢社会教育係長、高野丸子学校給食センター長、市川市民サービス担当係長、大平地域政策担当係長、翠川地域政策担当主査、馬場		

会議次第

1 開会（中山センター次長）

- ・配布資料の確認、欠席委員の報告

2 あいさつ（齊藤会長）

いよいよ今日から、地域まちづくり方針の見直しについて、検討していただくこととなります。皆様に御意見をいただきながら、いいものにしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。なお、本日は全体会終了後に旧カネボウ食堂棟専門部会を開催したい旨、部会長から申し出がありましたので、分散会は開催しないこととします。よろしくお願いいたします。

3 報告

(1)「丸子地域の防犯灯のLED化に関する意見書」への回答について（市民生活課）

資料の回答書を読み上げ内容説明。

資料 1:「丸子地域の防犯灯 LED化について」の回答書、意見書

主な質疑・意見の内容

(委員) 今回の回答書は大変残念な思いで拝見した。昨年 12月に地域協議会から提出した意見書の最後 4行に「丸子地域協議会では、これらの状況…」とある。これらの状況とは、丸子町時代は電気料が 100%町負担だったが、合併により自治会の 5割負担となり、負担額が自治会財政を圧迫している事と、省エネや環境問題に取り組むべき時期にきているということでLED化の提案なったと思う。LED化を進めることと地域予算を使って、あるいは使ってでもやりたいというのがこの意見書の内容であると思う。今日の回答を見ると、前向きに検討していくのだらうと思う。飯田市の例では、全 6000灯の防犯灯のうち、昨年度に 3000灯のLED化をすでに終えている。今後毎年 600ずつ、5年で全防犯灯のLED化をしようと進めているようである。回答書にもあるが、防犯灯の実際の管理等は自治会が行う。設置依頼や修繕など全部自治会がやっている。回答書の中に、製品の安定化等の不安材料が書いてあるが、もう少し前向きに進行してもらいたい。また、「丸子地域予算の活用も含め、現在検討を進めております」ということで、地域予算を使ってもよいの

かどうかということが、この回答書の中には無い。全体の委員会で、このことについては丸子地域自治センターも地域予算を使うことに賛成ですねという質問をしたが、そういうことは回答書の中に含まれるということだったが、依然として検討中ということ。色んな背景があって、是非地域予算を使ってこれを進めたいという意見書であるから、この回答をこのまま受けると、今までの委員の皆さんを含めて大変残念なことだと思う。このまま地域協議会としても黙って見ていただけないと思う。他の委員さんの意見も是非伺いたい。

(委員)私も同感。回答書と書かれているが、回答になっているのか疑問。最後に「検討を進めております」とあるが、見通しや方向性などもう少し具体的な内容を示していただきたい。

(市民生活課長)もう少し具体的にというお話ですので、実施計画の内容を申し上げます。実施計画は、来年度以降進めるような事業に関して計画に登載し、認められたうえで予算要求できるという制度です。LED化については、補助を出していきたいという内容で登載したい。今までは新規設置に対する1/2の補助で上限が3万円という補助だったが、それに加え、LEDに限っては修繕も含めて補助するというので、補助制度の創設が確定した。来年の4月1日から補助制度に沿った形での事業転換を進めていけると思っている。

(委員)私は前地域協議会時から関わってきているが、丸子地域でのLED化ということについての一つの観点は、丸子地域として地域予算を使ってでもできないかという提案だと理解している。もし丸子地域だけ地域予算を使ってやるのが駄目であるなら、駄目であるというきちとした返答が必要なのではないかと。委員の話にもあったように、丸子地域の特殊事情ということ踏まえて、方向出しをしていただけないというのがこの要望書の大きな一つの観点だと私は理解している。そういう方向での返答があって然るべきではないか。丸子地域が先行してできるのか、できないのかということに対するきちとした回答をいただければと思う。

(市民生活課長)回答書は先ほど読みあげたとおりで、これが市からの回答ということで御理解いただきたい。丸子の地域予算を使って、丸子地域の防犯灯を全てLED化することになると、地域予算の無い所はどうなってしまうのかということや、市としてやっていくには均衡を計らなければいけないのではないかとこの考え方もあり、丸子地域だけ地域予算を使ってLED化していくのはどうなのかという話だった。上田市全体的に広めるのであれば制度化しないとまずいのではないかと、丸子地域だけ突出するどうなのか。補助については、制度化する必要があるということで、その事務手続きで時間がかかってしまった。先ほど申し上げたように、補助については制度化されることになったということで御理解いただきたい。

(委員)丸子の地域予算を使った事業としては否定するという捉え方でよいのか。

(市民生活課長)回答書の最後「丸子地域予算の活用も含め、現在検討を進めております」ということなので、決して否定しているものではない。強い要望をいただいたので、地域予算の活用も含めた中で検討していきたい。

(委員)上田市全体でやるのであれば、上田市の予算としてやるわけであって、当然地域予算は使わない。地域予算を使うというのは、丸子地域が先行してできないかという中で地域予算という話が出てきている。ここで地域予算の活用も含めて検討するということは、丸子地域だけが先行してやるという選択肢もまだあるよと言っているようなものだと思う。上田市全体では地域予算は使えるはずがないのではないかと。

(市民生活課長) LED化の補助制度は、補助率が半分なのか 1/3なのかはわからないが、市の補助制度が創設されるという段階であり、詳細事項については、今は全てが決まっている訳ではないので、それ以上のことは現段階ではお答えできない。

(委員) 回答書を読み、今のお話を聞くと、品質上の問題や消費電力の問題等がある中で制度化しても難しいだろうというのが本線ではないか。制度化するというのは、初期投資が必要になり、当然その時にテストが必要になる。テストケースとして丸子地域を優先させて使うのであれば、当然初期のデメリットになる部分がある。上田全体のためにやるという目的とすれば、まず丸子地域をモデル事業として考え、その点においては、当然リスクを負わなければならない。リスクを背負ってやるのであれば、モデル事業として地域予算を活用できるという見解が前地域協議会の皆さんの意見で、もし必要ならば現地域協議会で再度議決して構わないと思う。そういうもののために、丸子の地域予算を使ってくれ、上田地域全体になりますよ、そういうことで考えていただくのがいいのではないか。この回答だけ見ると、デメリットやリスクについて何も書かれていない。初期投資のリスクを考慮し、どこかでモデル事業をやるべきではないか。

(市民生活課長) 市としては、地球温暖化防止という観点から非常に良い内容なので、全市的に進めた方がいいだろうという見解である。

(委員) リスクやデメリットについては、どのように考えているのか。

(市民生活課長) LEDに関する製品は、良くなってきたという話を聞いている。日進月歩で製品が改良されているので、その中でカバーできればと思っている。

(委員) テストケースやモデル事業の事を何も考えずスタートするのは難しいのではないか。一般予算でやろうとすると議会での予算可決が必要であり、もちろん丸子地域の予算を活用する場合も一緒だろうと思う。さらにこの件を進めるために、もう少し良い案を考えていただけないかと思う。

(市民生活課長) 今日いただいた意見は、今後、予算要求等に反映できるような形で努力していきたいと思う。

(委員) モデル事業の意見に賛成する。モデル事業はある程度のリスクを伴うもので、国や県の補助事業を新しくやる場合は、大概の場合はモデル地区を選定して、どこかで一ヶ所もしくは数箇所を実施し、それが良いか悪いかで次の年から全体に反映させる。この件においても、前向きにやっていただきたいという意見に私は賛成。最後の行の「上田市全体の防犯灯 LED化に関する補助事業化について、丸子地域予算の活用も含め…」これを悪く捉えると、上田市全体で足並みをそろえていく時に、丸子地域の地域予算を他の地域でも使っていく、そう捉えられるようなあいまいな表現になっているが、その点はどのように理解したらいいのか。

(市民生活課長) 地域予算というのは、その地域のための予算ということなので、丸子地域予算が例えば、他地域の事業に使われるということはない。

(委員) このことについては、2年以上前から地域協議会で議論されており、かなりの日数が経った中で、またこのような回答をいただき、課長からも具体的な返事をいただけない中で、地域協議会として部会を中心に再度提案させていただくのはどうか。モデル事業は私も是非やっていただきたいと思っている。上田市全体で 14,000 灯、丸子地域だけで 2,300 灯という中、複数の自治会で手を挙げていただけるような所があると聞いているので、50灯 100灯でもいいので、モデル事業としてこんなことをやりたいという具体的な提

案を再度させていただきたい。

(委員) 私もモデル事業実施の意見に賛成する。他市からの情報を学ぶことによりかなり導入しやすいと思うので、積極的に考えていただきたい。また、地域予算についての考え方に関して確認していく必要があると思う。先ほど、LED化に関しては、上田市全体で統一に進めたいという話があったが、統一にやっていく事業と丸子地域として特長を持って作っていく事業とはまた別の話。地域予算に関しては、特長ある地域を作っていく上で積極的に活用するものだとは私は今まで捉えてきている。モデルケースなり先進的に実施するからこそ地域予算を使う意味がある。地域予算の使い方の考え方としては、この特長づけをしていく上でも利用させていただきたい。

(委員) 意見書については、地域協議会と丸子地域自治センターが上田市に対して出したもので、大変重いものだと思っている。丸子地域自治センターとして、この事業に地域予算を使うことに当然同意してもらっていると考えていた。少し角度は違うが、地域内分権ということが盛んに言われているが、最終的には自治会が主体となって動く必要があると考えている。そうすると、丸子地域自治センターでまず地域内分権を実行していただきたい。そのためにも、こういった問題について、丸子地域自治センターと地域協議会が力を合わせてしっかりとした意見を出せる形にしていかないと、地域内分権どころではなく、ますます中央集権となってしまうのではないかと思う。

(委員) 地域協議会で協議したことは、当然丸子地域の意見だと思っているが、地域予算の捉え方について、行政の考えをお聞きしたい。

(センター長) 持寄基金の活用ということで説明申し上げますと、地域振興事業基金の中に各旧町村から持ち寄った持寄基金がある。どういう所に使えるかということ、合併前の地域の実情に鑑み、各地域の振興事業や地域内分権の推進に関する事業予算の財源に充当するもの。具体的にどういうものかということ、合併前からの懸案事項について、合併前に解決できなくて新市に持ち越してしまったものや、地域独自のイベント事業、例えば木曾義仲の武者行列、地域資源を活用した事業、地域課題に対応する事業、わがまち魅力アップ応援事業などに活用できるとされている。合併後に持ち越してしまった地域課題の解決には、市全体の他地域の住民の皆さんから見ても、それは地域の基金を入れて解決を図るのも無理もないと思ってもらえると思う。その地域の事情があるにしても、市全体での負担の公平性や住民の負担の公平性を損なうような部分については、いくら持寄基金とはいえ、使えないと思う。例えば、福祉医療を例にとると、他の地域は中学校 3年生までが対象となるが、丸子地域だけ高校生までを対象としたいと言って、そういう部分に、丸子地域だけ地域予算を使って負担を軽減するという話は、全住民の理解は得られないだろうと思う。そういう両極端な所を見ると、地域予算はこういう所に使えてこういう所は無理だというのがわかる。その間の真ん中の所に入ってくると、この事業には具体的に地域予算が使えるのだろうかということになり、その時々を考えていかなければいけない問題だろうと思う。昨年の 12月に意見書を出した時は、果たして地域予算というものに馴染むのだろうかという疑問、危惧というものは、若干ありました。しかし、地域協議会の議決を経て、意見書となり市へ提出されるものなので、地域協議会の議決を経た後は、市の財政当局なりが市全体のバランスを考えながら、地域予算が相応しいのかどうなのかということ、判断してもらえるものだと思っている。先ほど、委員からもあったが、全て地域予算は地域協議会の決議さえあれば使えるという話は、先ほど申し上げたような理由か

ら、全てがそうとはならない。地域予算に相応しいかどうかということは、その時代時代でも違って来るだろうし、事業の内容によっても違って来ると思う。今回の LED 化にしても、先ほど各委員からもあったが、市全体の事業とするならば、私も地域予算の活用というのは必要ないと思う。市全体として取り組むのだから、それは一般財源でやっていけばいい。「地域予算の活用を含め…」という部分は、詳しく踏み込んでの回答はなかなか難しいが、もう少しそこで何かできないのかなという部分があると思っている。私自身、市全体の補助事業化をするのならば、地域予算を使うのはおかしな話であって、そうであるならば、ここに地域予算の活用を含めてと書いてあるということは、何かあるのかなということで御理解いただきたい。

(委員) この件に関して、地域予算が活用できるかどうかの判断を、もう少し早い段階で知らせてもらいたかった。

(委員) 議事進行について。ひとまず、回答書に対する質問事項だけに限定して進行していただきたい。

(会長) 市からの回答を受けたので、回答書に対する質問・意見という形でお聞きしたが、あくまで回答が出た以上、この回答書を書き直せという訳にはいかないの、必要であれば改めて協議会として質問書を出さなければならないと考えている。先ほど委員から場合によっては、他の形で市へ要望するという話があった。私は、この地域協議会が丸子地域の中の最高決議機関だと思っている。委員の皆さんが納得しない場合には、また改めて出し直し、市長にあげていくというような方法しかないと考えている。それを含めて、意見をお願いしたい。

(委員) 会長の言われたように、是非地域協議会として再度検討をして、もう一度具体的なことで出すということで、次回からまた LED について検討していただければありがたい。

(センター長) なぜこの回答書が 10ヶ月もかかったのかということについて説明させていただきたい。委員の発言にもあったが、回答書の最初の部分と、後半部分で論旨が違くと受け取れる件にもつながるが、何とか意見書の内容を実現しようということで市民生活課と検討してきました。その中で、地域予算を使ってもらい、パイロット的な事業でやることが一番わかるし、皆さんに納得していただけることなのではないだろうか、検討を重ねたが、回答書はこのような内容となった。なぜこのような内容かということ、市とすれば、新エネルギービジョンの事だとか、地域全体で進めていこうという話の中で、LED 化についても新たな市全体としての取り組みとして、丸子地域が先行するという話ではなく、市全体としての取り組みができるような制度設定ができないだろうかということで、今までかかってしまったということ。市の考え方としては、地域予算を使って先行してやっていくということではなく、市全体として補助事業として取り組んでいくという回答である。そうすると、改めて地域協議会で議論してもらい、LED 化について地域予算を使ってでもという話を再度上げていただいても、難しい話となってしまふ。LED 化に関して、市の方針は市全体で取り組んでいくということなので、御理解いただけない部分もあると思うが、市の立場をなんとか御理解いただきたい。

(委員) 地域協議会もまだ出発したばかりなので、その位置づけというのが明確でないようで、もうすぐに始まらなければならない地域内分権との関わりで、地域協議会とは何だったんだという事にならないようにしたいと思う。個人的には、これは回答ではないと言

いたい。個人的にそう思っても仕方がないので、他の皆さんがよろしければ、もうこれ以上回答がでないということで、部会を解散してこの件は終了としたいと思う。

(会長)これだけ意見を出しても、違う形の回答が出る範囲が自ずと見えてきたように思える。LEDの専門部会としてもう一度まとめをして、その内容を報告していただいたうえで解散ということではよろしいか。

(委員)LEDの専門部会は解散という方向で決定なのか。私の考えとしては、専門部会の皆さんでもう一度回答書に対して検討していただき、その中でこれからまた新たな質問書を作るなり、また別の方向性を考えるという時間があってもいいと思う。

(会長)あくまで、地域協議会から提出した意見書への回答として受けたもので、また必要があれば専門部会などを立ち上げればいいと考える。

(委員)引続き専門部会を継続するという方が良いのではないか。

(会長)専門部会で継続して論議していただく事も結構だが、先ほどセンター長の意見もあったので、それを踏まえての検討をしていただきたい。方向性としては、要望書を別に出す、あるいは協議会として回答書に対する意見書を出して終わりにするなど色々な方法があると思うが、そういうまとめを部会にお願いしたいと考えている。

(委員)前協議会からの経過は確認できない部分もあるが、私はこの回答書を好意的に捉えている。地域予算はここにつき込まないが、上田市全体として今後取り組むべき課題であると認識していただのだと解釈したい。LEDの専門部会として、上田市にはこの事業について継続的に積極的に取り組んでいただきたいということで、この回答書を好意的に捉えたいと思っている。

4 議題

(1) 第1次上田市総合計画 地域まちづくり方針の見直しについて(事務局)

・資料に基づき、見直しの検討に関する基本的な考え方、答申策定に向けたスケジュールについて詳細説明。

・各項目について、質問や意見、取り組みの方向性について議論いただきたい。

資料1: 第1次上田市総合計画「地域まちづくり方針」の見直しの検討について

資料2: 地域まちづくり方針資料 別紙資料: 地域まちづくり方針評価シート(1~7項目)

主な質疑・意見の内容

【まちづくり方針番号 1】【軽快な交通ネットワークの整備】

(委員)資料には、担当部署により実施した事業が記載されているが、行政側に上がってきている、または聞こえてきている新たな地域課題はあるか。資料中の平成22年度の平井寺トンネルの割引券販売数が21年度と比べ激減しているが、何か理由があるのか。

(丸子建設課長)21年度は1年間の集計数値で、22年度は7月までの途中集計ということで数値に差異が出ている。

(委員)見通しとしては、21年度と同じくらいの販売数になりそうか。

(丸子建設課)同じくらいになる見込みである。

(委員)今年は例年のない集中豪雨が多発し、色々な所で災害が発生しているので、対応策について検討いただきたい。また、具体的な考えがあればお聞きしたい。

(丸子建設課長)今年は市街地や下丸子を中心として1時間に60mmという今まで経験したことのないような集中豪雨が発生した。異常気象が続いている中、平成19年に作成

した市街地排水対策計画により中丸子・下丸子地区で事業を実施した。今年度は上丸子を含めた計画を立案予定である。8月25日には市街地を中心に漏水被害が出たので、その対応などは現在検討中である。少しずつでも対策を実施する方向で考えている。

(委員)実施事業のなかに低騒音舗装とあるが、どういう道路なのか。辰ノ口地区はパイパスができたが、一部の民家で非常に騒音が酷く、二重サッシにしなければいけないという声を聞いたことがある。舗装後の騒音被害の実態調査は行われているか。道路騒音に対して、解消に向けた対応はされているのか。

(丸子建設課長)低騒音舗装は、(現在長野県と協議のうえ実施しており)、現在、国・県道を中心に舗装補修で実施している。丸子地域の中ではまず始めに国道254号線の荻窪など集落地域を中心に実施した。タイヤの(摩擦)圧縮音等を吸収するような材料等により騒音の少ない道路となる。国道152号線でも実施しており、今年度は自治センター前も工事箇所となる。来年度は、自治センターからシナノケンシの辺りまで実施し、ほぼ丸子地域内の国道152号線は完成する予定である。騒音の実態については、今後調査していきたい。

(委員)平井寺トンネルの割引について、関係者は非常に喜んでいるが、同じ地域をつなぐ有料道路はあってはいけないと強く感じている。県への要請など行っていただいているようだが、1年でも早く無料化への方向性を検討いただきたい。

【まちづくり方針番号 2】【健康×観光×自然=交流人口の拡大】

(委員)の中学生派遣交流事業について、「中学時代参加した生徒が、今年度は引率者として協力いただいた」という意味は何か。また、ここに関わる職員(同伴)は何名で、事業の成果はあがっているのか。

(社会教育課)この事業が始まった当初2年目くらいに、中学生としてブルームフィールド市へ派遣した中学生(女性)が、今年度引率者としてアメリカへ同行した。職員は、アメリカへは同行していない。国際交流事業を進める会の会員4名が引率者としてアメリカへ同行した。この事業は21年度から丸子地域の限定ではなく、全市を対象を広げた。ただ、21年度は新型インフルエンザの影響で、事業を中止せざるを得なかった。今年度は15名の定員に対して20名の募集があった。募集の仕方は、国際交流に対する思いを作文として出していただき、国際交流事業を進める会の皆さんが点数づけて審査をし、15名を選抜する形である。高校生・大学生・社会人になってからでない地域にこういった貢献ができているのかが分かりづらいが、実際に中学生の時にこの事業に参加した方が、率先して引率者として手を挙げていただいて事業に関わっていただいたという事も一つの成果だと思う。

(委員)当時中学生で今回引率者という女性の方は、現在は成人されているのか。

(社会教育課)20代前半の女性で、実家は丸子地域内で、現在は東京で働いている。

(委員)小学5年生くらいから派遣することはできないか。現在は、受け入れと派遣を交互に行うため、派遣のチャンスが1度しかない。選考にもれた場合に、もう一度チャレンジできる機会を与えたい。また、来年度から小学5年生にも英語の授業が導入され、英語が身近になるということで検討いただきたい。

(委員)この項目ということではなく、評価シート全般について。実施した事業と進捗の状況がかなり重複しており、両方含めて実施した事業と受け取れる。当初のまちづくり方針に示されている基本的な目標やあるべき姿に対して、実施した事業によってどう進展し

ているか、あるいは目標に対してどういう可能性が拡大しているのか、読み手にわかるような表現になっていないと、事業の進捗状況を評価し難い。十分な理解や把握ができなければ、十分な議論もできない。

信州国際音楽村については、整備計画だけで活用方法について示されていない。音楽村の活用が大事であって、整備することが目的ではない。しかし、整備のことしか書かれていない。例えば、ラベンダーまつりやスイセンまつりの時は賑わいがあるが、その他は来訪者が少ない。整備して、それをどうやって活用するのかが書かれて、はじめて読み手がああそうだなと思える。全般的に、報告書として正直判断し難いと感じた。

(センター次長)まちづくり方針は上田市総合計画の中に謳われている。これを実現するために、実施している項目とその項目の進捗状況が別で書かれている。その中で、ご指摘の一番の目標に対してどのような進展または状況等が書かれていないということで、この事業について途中経過ということもあるが、ご指摘いただいたとおりわかりづらい部分もある。この点については、今回いただいた御意見をもとに、答申案を協議いただくなかで改めて資料を提供していきたい。信州国際音楽村については、約5ヘクタールの公園として整備してきている。御指摘のとおり、ラベンダーまつりやスイセンまつりしかないということで、計画の中には、四季とは言わなくとも3シーズンぐらいは市民の皆さんや観光客の皆さんに来ていただけるようなものにしたいということで、現在利用計画を進めている。平成23年度の完成を目指し、22年度中に大きな骨格部分は完成する予定。それに関連した道路整備の案があり、できるだけ市民の皆さんが入りやすく、わかりやすく判断できるような道路の建設、県外からも大勢のお客様に来ていただけるような計画を考えている。

(委員)担当の方が、今現在進めている中で問題だと思うことがもしあったら、次回教えていただきたい。

(委員)今後の取り組みの方向性ということで、鹿教湯温泉を整備し魅力アップしたとあるが、集客数は減っている。ハードの部分は整備されたということだが、せっかくクアハウスのような施設もあるので、もっとソフト面を整備し、観光につながる方策を打ち出していただきたい。「医療と温泉」のコンセプトで、現在も高齢者が健康をめざして生活しているので、鹿教湯に移住したくなるような方向性や人口流動を考えてほしい。

(産業観光課長)鹿教湯の滞在者数はピーク時の1/3くらい減っている。市全体としても、なんとかしようと検討を進めている状況である。ハード部分の整備は進んでいるが、ソフト部分の整備や集客をどうするかについては、鹿教湯地域・丸子温泉郷という中で、地域の皆さんと話し合い、計画を策定する予定である。その中には、医療というコンセプトの基となる鹿教湯病院があり、またクアハウスなどの施設も巻き込み、新たな鹿教湯の温泉地づくりということに今後取り組んでいく。

(委員)クアハウスの利用者数や保健指導が必要になった者の年間利用状況など、目標や状況について、具体的に数値化できるものは数値化していただきたい。

(産業観光課)20年度は約22,000人、21年度は23,300人がクアハウスを利用。急激な増ではないが利用者は増加している。それぞれ目標値を設定し、その目標に向かってどうしたらいいかを考えて進めている状況である。

(委員)数値化できるものとできないものがあると思うが、目標値に対して20年度、21年度とそれぞれ出せれば理想だが、それが無理なら、上向き・下向き・平行状態とい

ったものでもいいので、表示できるものがあれば表示していただきたい。

(委員)地域まちづくり方針の中に定住人口の増加に関する記述があまりないので、新たに付け加えることはできないか。5項目の「可能性を秘めた雇用・居住・福祉の拠点整備」か7項目の「自然環境の保全と人々が共生できる地域づくり」か、どこの項目に入れればいいかはわからないが、人口が全体的に減少する中で、丸子地域の人口が少しでも増えるにはどうしたらよいかということの記述を入れたい。

中学生派遣交流事業では、派遣の中学生が地域の活動として引率などに協力したということだが、ワールドキャンパスインターナショナルについては、次のステップは考えているのか。

(社会教育課)今年度までは、社会教育課が主体としてワールドキャンパスを受入れてきたが、来年度からは、民間で受入れるという方向性が決まっている。OPIE や関係する団体が実行委員会を作って受入れる予定。日本全国で行政が受入れをしているのは上田市だけになっており、他の地域は実行委員会やNPO法人が主体となり受入れている。民間で受入れた場合の方が色々なアイデアが出て、交流範囲も拡大するのではないかと考えられる。

(委員)クアハウスの利用者数の目標値についても教えていただきたい。

(産業観光課)利用者数目標値は25,000人で、設置目的は健康増進である。よって、黒字営業を目的として行っている事業ではない。

(センター長)市の施設は、ただ単に収支だけでは計れない部分がある。収支が取れるならば、それは民間でできる事業となる。例えば、赤字となるがそれが市民の健康増進のため、あるいはお客さんが違う地域から来てくれて地域の経済や活力の増進などにつながるのならば、収支が取れなくても市でやろうという事である。クアハウスはもともと黒字になるような施設ではないと思う。目標や実績、進捗状況について、もう少しわかりやすい記述ができないだろうかという話があったが、市では目標管理制度があり、クアハウスの利用者が何人にして実績はどうだったのかという数値管理も行っている。全体的に見直しをして、できる限り載せられる部分は載せていきたい。また、進捗状況が行政の自己評価のような形になってしまうかもしれないが、皆様ご覧になって、こんなことだって考えられるのではという話も出てくるだろうと思う。直接的にまちづくり方針につながらないかもしれないが、御意見を聞きながら、仕事をしていく上でも参考にしていきたい。

(委員)音楽村について、先ほど3シーズンの賑わいというお話で、春はスイセン、夏はラベンダーがあるが、秋の集客のために何かいいアイデアが出されてきつつあるということなのか。

(センター次長)多くの周辺の市民の皆さんや公募で集まった市民の皆さんに策定していただいた基本構想があり、それに基づいた基本計画により用地買収や工事を進めている。今回は、公園の骨格・枠組み部分ができるということである。具体的には、芝生の広場や花壇等が設けられる。手づくりの公園で、年数をかけて皆で育てていく公園にしたいと考えている。御指摘の3シーズンという話の中に、例えばバラの育て方教室の開催がある。また、冬には剪定に関する講習会を開きたいということ。ワークショップをやって計画を決めたわけだが、植栽計画の中に春に咲く桜ばかりではなく、秋に綺麗に紅葉するものも入れたらどうかという計画もある。紫陽花も、水分を多く必要とする植物で日陰でも育つということで、音楽村の北側斜面にそういったものを植えたらどうかということだった。

現在、設計を進めている中でそのような検討をしている。多くの皆さんに楽しんでいただける公園にしたいということで、さらには、折角そのような公園になるので、県内外からも来ていただけるような公園づくりを地域の皆さんとともに進めていきたいと思っている。

【まちづくり方針番号 3】【新たな産業ブランドの創出】

(委員)「新たな産業ブランドの創出」ということで、いかに新しい産業ブランドを創出していくかという方針だと思うが、果たしてここに掲げている当初からの項目だけで良いのか。そこにさらなる施策を入れて、トータルで当初の方針に対して向かっていくんだということが見えれば良いが、私から見るとても新しい産業ブランドの創出に向けた施策として十分な取り組みになっているとは思えない。

(産業観光課長)陣場産ブドウのワインが 11/1 に発売になるのを記念して、31 日に鹿教湯でのイベントを予定している。このワインは、10 年前から計画をしてきて、やっと形になったという状態。直売所の「あさつゆ」にしても、長い年数をかけて地域の皆さんと取り組んで、それを育てて形にしてようやく現在のよう人気を得ている状況である。農業と観光、商業の融合という事では、今年から「あさつゆ」と鹿教湯温泉郷との連携の取り組みを行っている。その他に、野菜の出荷時期をずらして販売するという取り組みにおいて、地域を越えて、菅平で苗を作ることで、時期とずらして出荷するといった試みなど、それぞれの連携をもとに色々な取り組みを進めている。

(センター長)「新たな産業ブランドの創出」には、中心市街地の活性化と後継者の育成、それと、ブドウを利用した新たな産業ブランドの創出、この二つのことがあると思う。ワイナリーを陣場台地に持ってきて農業・商業・観光を融合し、その事により地域の活力を見出していこうというのが念頭にあったのだと思う。ワイナリーの実現性については、メルシャンでも勝沼のワイナリーを新設したため、丸子にワイナリーを造るかということ、なかなか難しい部分があり、情勢も変わってきているので、それぞれの状況を確認しながら今後の展開を図っていききたいと思っている。

(委員)行政として、これは絶対皆に知ってもらいたいということが抜け目なく、きちっと書かれていなければ評価シートの意味がない。我々も理解できないし、議論もできない。評価シートの修正をお願いしたい。

(センター次長)次回、目標管理で示せる数字は、右の表の左隅に記載させていただき、ここに書いてある以外の問題等については、その項目について事前に説明させていただき、その上でまたご意見をいただくという形でお願いしたい。

(委員)ワイン用ぶどう畑の造成を一步進めて、ワイナリーの建設をしていただきたい。ファーストビルについては、改修後の利用状況について、整備をして賑わいはできたのか。できていないならば、それから発展してどんな方策があるのか伺いたい。

(センター次長)ファーストビルは 13 室あり、8 室がテナントでお貸しできる。そのうちの 4 室は、以前入っていたテナントが退去してないという状況で、これを改善してなんとかしたいということで、5100 万ほどかけてエレベータを設置、さらに内装の整備をした。この目的は、地域商店街の中心にあって、多くの方に利用していただきやすい施設にしたいということ。その中で、上田商工会もあそこに移っていただいた。私どもとしては、一番はテナント全部に入ってもらい、さらには賑やかな中心市街地の拠点の施設として

多くの人を集めていただきたいと思っている。最近、社会教育課の仕掛けでファーストビルの1階にスマイルステーションができた。丸子地域の小・中・高の連携のネットワークの中で、今年の9月から12月までそれぞれ分担をして絵画や書道、その他色々なものを展示していただく。それをきっかけに多くの方が来ていただけるような、さらに、そこでテナントに入っていたらいいということで、広報等でもテナントの募集を進めている。真の目的である中心市街地の活性化をするために、ファーストビルに注目していただき、多くの方がテナントに入っていたらいいような取り組みをしているという状況。

(委員)ファーストビルのエレベータが非常に使いづらいという意見があるが、事務局または産業観光課で把握をしているか。ほかに、荒廃農地の問題で、過去5年くらいでどのように推移しているか。丸子地域としての増減はどうか伺いたい。

(センター次長)ファーストビルのエレベータについて、1階入口のドアが入口のメインの奥のドアから入るものとエレベータ側に抜ける小さいドア式の扉がある。現在、施設管理の関係で、小さい扉状のものは閉め、もう一方からのみ入っていただいている。若干使いづらいという話があるとは聞いている。私どもとすれば、横から入られると管理上まずいのかなという配慮の上でやっている。そういったことがクリアされ、その方がいいということであれば、使い方については管理の状況等把握しながら再検討したいと考えている。

(産業観光課長)遊休荒廃農地は増えている。農政担当と農業委員会の両方で各地区を回り荒廃状況の推移を定期的に調査しており、借り手を斡旋する事業にも取り組んでいるが、全体的に後継者の高齢化と若い人達が育たないということがあり、なかなかうまく結びつけるところまでいっていない。農政側としても一番大事な課題であり、農業委員会の定期的な打ち合わせの中にも議題として挙がっており、できるだけ荒廃農地を減らそうという取り組みを進めている。

(委員)絆再生会議が7月からスタートしているが、これまでの会議の状況と各種サービスの状況はどうか。情報発信についての検討はどのようになっているか。

(産業観光課長)上丸子の商店街をなんとか再生しようということで、上丸子の自治会長さん、高齢者クラブ連合会、商工会、実際事業を実施する母体の「トットコ会」。この会は、商店の後継者の皆さんが主で、会員が約40名。役員さん約10名と一緒に会議に加わり商店街をなんとかしようということで立ち上がり、現在検討会で協議を進めている。現在マツヤさんが西友さんの方へ移りたいということで、三反田周辺の高齢者の皆さんから「困った」という不安の声があがる中、上丸子商店街の若い人たちがなんとか高齢者の皆さんをお助けできることを考えたいということで、事業展開が検討されている。その一つは、お買い物補助事業ということで、高齢者の皆さんに対して協同宅配できないかということ。移動市場に取り組んでいきたいということ。武石のピコが撤退し、周辺の高齢者の皆さんもマツヤさんに買い物に来ているという状況がある。なんとか自分たちで商売をして、絆を深めた中でやっていければということで協同宅配と移動市場を検討している。二つ目が、イベント請負事業をやっていきたいということ。丸子には葬祭場が2箇所あるが、高齢者クラブの皆さんにアンケートをとったところ、まず葬祭場まで行かない、あまりにも経費が高い、自分たちは近所の人にたちに来てもらえばいい、そんな意向があり、地域の皆さんのために何かできないかということでイベント事業を現在考えている。三つ目が、会員カードの発行。できればお年寄りの皆さんと繋がって、この次もまたお願

いしますという時に、何か特典をサービスとして表せるようなということで、カードの事業に取り組んでいる。こういう内容が「トットコ会」の役員の中で練られた状況。年内に2回目の絆再生会議を開き、そこで提案をしていくということになっているので、これからやっと地域の皆さんに絆再生会議としては、こういうことを考えていますということをお知らせできると思っている。

5 その他

(1)次回会議の開催日について（事務局）

- ・ 第8回丸子地域協議会 平成22年11月25日（木曜日）13時30分から
丸子地域自治センター4階 講堂

(2)その他

(ア)前回の分散会での協議内容について

第1分散会（委員）

- ・ 自治会について。（現在の自治会の状況、世帯数や加入状況等の問題）
- ・ LEDの防犯灯について。
- ・ まちづくり方針の見直しについて。
- ・ 丸子ドドンコの反省会がまだ行われていない。
- ・ 若者と商店街の活性化とをセットにして協議したらどうか。
- ・ まちづくりの推進に自治会の活動をどのように広げていけばよいか。

第2分散会（委員）

- ・ 地域協議会のあり方について。
- ・ 議員との意見交換が必要であり、懇談会をやったらどうか。
- ・ 議員にも地域の課題がどこにあるのかをよく知っていただきたい。
- ・ 地域内のいろいろな団体との意見交換も必要ではないか。
- ・ 住民ニーズと地域協議会の課題とする事項は一致しているのが理想だと思う。
- ・ LED化について、回答がないのはどういうことか。行政が求める以上の研究を行い、地域住民に評価される地域協議会になっていかなければならない。
- ・ 地域内分権といいながら、実体として地域に予算と権利がなく、地域内分権が確立していない。
- ・ LED化をもっと強く推し進めていかなければならない。
- ・ 上田市は先進的にやっていこうとする気運がないように感じる。
- ・ 地域課題として、丸子地域内に助産所の設置を協議会で取り上げていくべきではないか。

(イ)地域別懇談会について（会長）

11月2日に行われる地域別懇談会は、市と地域協議会の共催で、市民の皆さんの意見を直接聞く数少ない機会となっている。委員の皆さんには是非ご参加いただきたい。

6 閉会 16:00 地域協議会終了後、分散会を開催（第3 4会議室）